

臨床講義

鑑定演習(殊ニ禁治産ニ就テ)

千葉醫科大學教授 松 本 高 三 郎 演

一、鑑定 Gutachten (獨) Report (英) トハ鑑定人ノ證言乃至鑑定人ノ判斷ト云フ意義デアリ、鑑定人トハ特別ノ専門的學術技能ヲ以テ訴訟中ニ實驗シタル結果ヲ供述スル第三者ノ謂デアアル。從テ鑑定人タルニハ訟訴當時者及ビ裁判所以外ノ第三者デナカラネバナラス。蓋シ裁判所ガ鑑定ヲ命ゼントスル人ニ向テ必ヅ先ヅ被鑑定人ト親戚其他ノ緣故的關係ノ有無ヲ確メタ後デナケレバ宣誓ヲ許サヌ所以デアラウト諒解スルガ至當デアアル。斯ナ事デモ平素能ク心得置カヌト自分ヲ罪人ト同様ナ取扱ヒニサルルモノノ如ク思ヒ誤リ、甚ダシク不快ヲ感スルコトガアルカラ注意セネバナラス。總ジテ裁判所ノ仕事ハ 天皇ノ大權ヨリ發動スルモノデアリ、且又法律ノ命令デアアルカラ絕對服從ノ義務アルモノト豫ジメ承知シ置カネバナラス。但シ法律ハ非違ヲ誡メ善ヲ勸ムルノガ根本精神デアルト同時ニ又其一面ニハ國家社會乃至個人ノ生命財産名譽權利ヲ保護スル爲ノ有ラユル方法ヲ規定シタ者デアアルカラ、斯ノ精神ヲ背戾シタ命令ナラ之ヲ拒否スル勿論妨グヌノデアアル。

二、鑑定ヲ命ゼラルル場合 現行刑法第卅九條ニ、心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ輕減スト云ヒ、皇室典範第廿五條攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若クハ身體ノ重患アリ、又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フコトヲ得ト規定シ、又人事訴訟手續法第四十八條ニ禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ

付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ズト斷言シ、民法第五編第六章遺言ノ部第六十三條ニハ「遺言者ハ遺言ヲナス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス」トノ條件ヲ附シ、其他放火殺人、姦淫、傷害、墮胎、監禁、詐欺、恐喝乃至恩給、除免等ノ訴へ又ハ請求アリタル場合ニ於テ其性質、方法、動機ガ果シテ健康精神ヨリ出デシカ將タ精神異常乃至精神病ニ基因スルカヲ分明ナラシムル必要ヲ認メタル際、其事件ニ關與シタル判事ガ偶々其専門學上ノ特種智識ヲ有セバ即チ足ルモ、然ラザル場合、否是レアリトスルモ刑事訴訟法第百二十五條ノ規定ニヨリ裁判所自身ガ其問題ヲ解決シ得ル場合ノ外、専門學上ノ問題ニ就テハ鑑定ヲ避クルヲ得ザルモノデアル。果シテ然ラバ右ニ列舉シタ様ナ場合ニ際シ何職ノ人ガ其鑑定ヲ命ゼラル可キ乎、専門技能ヲ有スル醫師其人ニ非ズシテ誰ゾ、是レ吾レ人ト法曹家トガ密接ナル關係ニ立テルヲ知ル可キト同時ニ醫師タルモノ亦鑑定ニ應シ得ル豫備的智識、ナクシテ止ムベカラサル所以ヲ悟ル可キデアルト思フノデアアル。

三、鑑定ヲ爲スノ義務鑑定ト證言トハ勿論同一デアイ。然レドモ公法上ノ義務デアアル點ニ於テハ則チ一デアアル、故ニ醫師タラン者皆悉ク斯ノ義務ヲ負ハナケレバナラヌト合點スルノハ當然デアアル、然レドモ曩ニ述べタル「鑑定人ノ定義」ニ依テ明カナル如ク、鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術技藝若クハ職業ニ從事スル爲ニ公ニ任命セラレ若クハ授權セラレタル特殊ノ人ガ斯ノ義務ヲ負擔スベキデ醫師タルガ故ニ何人モ之ニ應ゼネバナラヌト強フル性質ノモノデナイ事ハ勿論デアアル、唯其人ノ専門トスル醫術ニ關シテ鑑定ヲ命ゼラレタル場合ニ理由ナクシテハ之ヲ拒ミ得ザルト同時ニ、呼出ニ應ゼザルカ又ハ義務忘リタル際ニハ二圓以上廿圓又ハ其倍額ノ罰金ニ處セラル、事アルヲ承知シテ居ラネバナラヌ、之ニ反シテ民事訴訟法第百九十七條ニ(一)原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親戚ナル時(二)原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者(三)原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者、同二百九十八條ニ(一)官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者ガ其職務上默秘スベキ義務アル事情ニ關スルトキ(二)醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ビ僧侶ガ其自分又ハ職業ノ爲委託ヲ受ケタルニ依リテ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スル場合ニ於テハ證

一、心神喪失ノ程度

二、心神喪失ノ常狀ノ有無

以上

右ニ依リ余ハ即日鑑定書作製ノ順序トシテ申立人〇〇〇ルニ就キ被申立人〇〇〇吉ニ係ハル遺傳並ニ既往歴ヲ調査シ、更ニ後者(被申立人)ヲ隔日ニ千葉醫科大學附屬醫院腦病科ニ出頭セシメ親シク同人ノ身體及ビ精神狀態ヲ檢診シ、彼レ此レヨリ知得シタル材料ヲ綜合シテ左ノ鑑定書ヲ作製シタリ。

鑑定書

被申立人

〇〇縣〇〇市〇町〇丁目
〇〇〇七番地平民無職

當〇拾〇年

一、遺傳歴、父ハ生來強健ニシテ著患ニ罹リシコトナシ、吹煙ヲ好ミシモ飲酒ハ稀ナリ、花柳病ノ疑ヒアリシヲ聞カズ、六十九歳ニシテ胃潰瘍ヲ患ヒ之レガ爲メニ病没ス。

母モ亦健康ノ方ニシテ〇〇家へ歸嫁以來〇男〇女ヲ舉ゲ現ニ健存ス、飲酒吹煙ノ癖ナシ。

内祖父〇歳ニシテ死ス、死因今詳カナラズ。

内祖母〇拾九歳ノ交胃癌ニ罹リ死去ス。

外祖父ハ生前豪酒家ノ稱アリ、五拾歳頃花車ニ轆カレ脚部ヲ挫折シ治療ノ効ナクシテ死ス。

外祖母ハ生來虛弱ニシテ殆ド藥汁ヲ手放セシコトナカリシガ〇拾四歳ノ交遂ニ病死ス。

曾祖父母系ニ就テハ今知ルモノナシ。

母方ノ内曾祖父及ビ外曾祖父ハ共ニ中風ノ結果○拾歳ニテ、又外曾祖母胃腸疾患ノタメ○拾九歳ニテ何レモ病死セリト云フ。

被申立人ハ同胞○人中ノ第壹子ナリ、第○子(男)生後約七拾五日、第○子(女)生後約四十日ニシテ何レモ腦膜炎様症ヲ以テ夭死シ、第○子(女拾○歳)健存ス。

二、既往歴、胎生期中異常ナク月滿チテ安産ス。

小兒期(約七歳迄)心身ノ發育ニハ異常ヲ認メザリシモ天性ノ賦質ハ虛弱ニシテ風邪ニ冒サレ易ク、月トシテ醫家ノ出入セザリシコトナキ狀況ナリシガ、中ニモ四歳ノ時寒冒ト同時ニ肺炎ヲ併發シ○○○○ノ治養ヲ受ケシコト約三週間ニシテ輕快シタリ。

學齡期(七歳ヨリ十五歳迄)頭痛、睡眠不安等ノ常癖アリテ絶エズ藥汁ニ親ミ缺席多シ。

破瓜期(十五歳ヨリ廿一歳頃迄)色情ノ發露ハ普通ヨリ著シク晩レタリ、○六歳ノ正月初メテ精神異狀ヲ呈ス。

成年期(廿一歳ヨリ約五十歳迄)丁年ニシテ徵兵ニ應ゼシモ體質虛弱ノ故ヲ以テ不合格トナル。

養育史、父母ノ手ニ養育セラル生來虛弱ナリシ結果其取扱ヒハ殊ニ寛容ナリ。

氣質、内氣、因循、溫柔ノ方ニシテ男性氣分ニ乏シク、居常多クハ家庭内ニ閉居シ兒戲ヲ好マズ、殊ニ小學時代ヨリ神經質ノ徵候顯現シ、交友少ナシ、○拾○歳ニシテ初メテ娶ル、同棲約○年ニシテ離別ス、其理由ハ夫婦間相和セシモ被申立人ノ虛弱ナルヨリ將來ニ係ハル自己ノ運命ヲ顧慮シ實家へ複歸シタル儘歸來セズト云フ、爾來一層頻々花柳界ニ出入シ、酒色ニ荒ミ、濫費濫與ノ惡癖ヲ招來シ、生計ヲ顧ミザルニ至レリ。

教育史、身體虛弱ノ故ヲ以テ小學校へ入學ノ時期モ遲引シ九歳ニシテ初メテ就學シ、拾○歳全科卒業ス、通學中ハ好學ノ方ナリシモ成績ハ佳良ナラズ。

生活史、未ダ一定ノ職業ナシ、先妻離別後獨身ニシテ實家ニ衣食シ安逸ノ生活ヲ送ル。

宗教、家代々禪宗ニ歸依セシモ被申立人ニハ信解ナシ、父死亡後モ自發的ニ慕參シ又ハ朝夕位牌ニ對スル崇敬ノ念アルヲ聞カズ、拾〇歳ノ頃ヨリ飲酒、吹煙、荒色ニ耽リシト云フ。

發病以來ノ症狀並ニ經過、小學在學中ヨリ睡眠不熟ノ習癖アリテ催眠劑ヲ常用セリ、偶々拾〇歳ノ正月〇日(〇賣ノ日)店頭ノ混雜中如何ナル理由ナリシカ突然憤怒暴行ヲ始メ、手當リ次第器物ヲ投棄シ戸障子ヲ破リ父母兄弟ノ見界モナク亂暴狼籍ヲ働キ、家人ヲシテ初メテ精神ニ異常アルヲ疑ハシメタリト云フ、爾來不眠ノ後ニハ右ノ如キ興奮發作ヲ呈シ、熟睡ノ後ニハ沈靜ス、而シテ興奮ト沈靜トハ約十五日間位繼續シテ目下ニ至レリ、其當初〇〇縣立病院〇病科ノ診察ヲ請ヒ、早發性痴呆ノ診斷ヲ受ケタリ、然レドモ治驗著シカラズ、依テ其五月〇〇温泉ニ轉地シ〇〇屋ニ湯治スルコト約一ヶ月ニ及ベリ、其際附添婦トシテ看護ニ從侍シタル約〇拾歳頃ノ老婆ト私通シ滯在中醜行ヲ繼續シ、歸宅後ハ殆ド毎日〇〇料理屋、飲食店等ニ入り酒色ニ耽溺シ、金品ヲ浪費又ハ濫與セシコト約〇〇百圓ニ及ベリ。父母之ヲ制止スレバ無斷外出シテ登樓シ、其局無錢飲食者トシテ警察ニ召喚セラレ、或ハ電話ヲ以テ家人ニ金錢ヲ強要ス、然レドモ金錢ノ出納ハ頗ル綿密ニシテ一々之ヲ手帳ニ記入スト云フ。

又興奮ノ前驅トシテハ動作著シク躁忙トナリテ落ち付ナク、衣襟ヲ飾リ髪ヲ理メ活動ニ行キ又ハ汽車ヲ籍ツテ目的ナシニ遠乗シ、或ハ病院ニ行クト僞ツテ空シク市街ヲ徘徊シ、吳服ヲ評價シ、時ニハ必要ナキ器具書籍ヲ購ヒ、或ハ遊里ニ入ツテ徹宵歌舞スル等殆ド躁病ヲ疑ハシムル状態ヲ呈スルモ、一定時期(約十四五日間)ヲ經過スルヤ氣分一轉シテ鬱憂トナリ寡言緘黙ニシテ應答ナク、夜具ヲ被ツテ臥床シ、飲食ヲ勸メ入浴ヲ慫慂スルモ凡テ之ヲ拒否ス、斯ノ時期ニハ何等對像ナキニモ拘ラズ「枕元ニ敵ガ來テ居ル」怖イ「女ノ聲デ自分ヲ呼ブ者ガアル」ナド獨語シ、又ハ空笑シ、時ニハ衝動的ニ亂暴スルコトアリ、而シテ是等興奮ト鬱憂トハ約半ヶ月位ニ交代シ來ルモ前者ノ場合ニハ多辯、多動ニシテ舉止ニ活氣アリ、智力ニ障礙ナシト云フ。

(以上ハ實母ノ任意供述ニ據ル)

現在症、(甲)、身體的症候

身長〇尺貳寸九分、體重〇十〇基瓦ヲ算シ、體格、榮養ハ蒲柳質ト稱ス可キモ身體各部ノ鈞合ハ畧ボ平均ス。

體溫卅六度五分、脈搏七拾二三至、呼吸十七八至ニシテ生理的順調ヲ示シ、皮膚ハ蒼白ナルモ中等度ニ濕ヒ血行亦正常ナリ。

頭蓋ハ五分長ノ毛髮ヲ以テ密ニ被ハレ、奇型又ハ外傷ノ跡ヲ認メズ、式ニ從テ頭形ヲ測定スルニ概ネ左ノ如シ。(仙迷ヲ用ユ)

周 圍	五六、〇	耳後頭圍	二四、〇
耳顱頂圍	三五、〇	耳下顎圍	二八、〇
前後 徑	一八、〇	左右 徑	二〇、〇
耳前頭圍	三二、〇	鼻根後頭圍	三二、〇
耳孔鼻棘徑	一一、〇	耳孔 徑	一四、〇
橫 徑	指 紋		

即チ頭形ハ短顱ニ屬ス。

感覺器ヲ検査スルニ異狀ナシ、唯本人ノ訴ヘニ據レバ晝夜ノ差別ナク耳ニ無言ノ言語ヲ聽クト云フ。

顔面ハ細長ナルモ左右相對ニシテ輪徑作用ニ異狀ナク、口角モ同高ニシテ口裂ハ堅ク閉合ス、眼球運動又ハ眼瞼ノ開閉等正常ナリ、唯射入光線ニ對スル瞳孔ノ反應ヲ缺如セルハ頗ル吾人ノ注目ニ價ヒス。

齒列ハ不正ナルト同時ニ上下ノ大白齒悉ク齲漏ヲ呈シ咽頭部少シク腫脹ス。

音聲ハ低ク早ク構音明瞭ヲ缺キ往々ニシテ聞キ取リ難キコトアリ、然レモ言語ノ震顫乃至蹉跌等アルコトナシ。上肢ヲ伸展セシムルニ微細ノ震顫アリ、Romberg氏 症狀ハ缺如ス、歩行ニ異常ナシ、

筋肉ノ器械的刺戟性ハ尋常ナルモ膝蓋腱反射アヒレス腱反射等共ニ微弱ナリ、足現象 Babinski 氏症狀等ハ之ヲ證明シ得ズ。

胸腹部ヲ視診スルニ左胸ハ稍萎縮シ、腹部ハ中等度ニ膨隆ス、更ニ之ヲ打診スルニ右側肺尖ハ短音ヲ呈シ聽診上呼吸音微弱ニシテ呼吸延長ス。

生殖器ノ發育ニ異常ナシ、分泌排泄共ニ尋常ナルト同時ニ睡眠食思等普通ナリト云フ、(家人ノ言ニ依レバ沈靜時ト興奮時トニ於テ一様ナラズト) 淋疾ノ既往症アルモ梅毒ノ有無ハ不明ナリ。

(乙)精神症狀、顔貌ハ鬱憂、不管性ニシテ刺戟ニ對スル反應性弛緩シ、眉間ニハ常ニ蹙眉ヲ呈シ頭部ハ半バ右方ニ傾キ、一般ノ姿勢ハ前屈性ナルヲ以テ外觀上何物ヲカ思案シツ、アルガ如キ感アリテ態度揚ラズ舉止進退共ニ活氣ナク且ツ緩慢ナリ。

談話ハ寡弱ニシテ自發的ニ身體ノ違和ヲ訴へ或ハ寒暖ノ挨拶乃至敬禮等ヲナスコトナシ、之ニ問診ヲ試ムレバ殆ド其内容ヲ顧慮スルコトナク、第三者ノ聲ニ應ジテ直ニ即答スルガ如キ傾向アリ、而モ其返答タルヤ極メテ單調ニシテ斷片的ナリ。例ヘバ左ノ如シ。

問、何處ガ悪ルイカ、

答、腦、

問、腦ガドンナ具合ニ惡イカ、

答、重イ、

問、耳鳴リハシナイカ、

答、シナイ。

問、學校ハ何年マデ修業セシヤ、

答、高等四年、

問、何處ノ學校カ、

答、〇〇小學校、

問、兄弟ハ何人カ、

答、〇人、

問、家ハ如何ナル職業ヲ營ミツ、アリヤ、

答、〇屋、

問、選舉ハ何月何日カ、

答、五月十一日、

問、〇〇市ヨリ誰ガ立候補シタカ、

答、〇〇、

之ヲ要約スルニ領解作用ハ略ボ尋常、意識ハ清明ナルモ觀念内容貧弱ニシテ一聯ノ思想ヲ構成スル能ハザル結果談話ハ單調ニシテ僅ニ觀念ヲ羅列シタルニ過ギザルガ如キ觀ヲ呈スル所以ナリ。又之ヲ側面ヨリ觀察スルトキハ時々何事カ低聲ニ獨語シ或ハ空笑ヲ漏スヲ見ル場合少カラズ其理由ヲ本人ニ問ヘバ「男ノ聲デ自分ヲ罵詈シタリ稱贊スル様ナ内容ノ聲ガ聞ユルノデ之ニ答ヘタリ或ハ笑フノデス、又時々幽靈ノ様ナモノガ見エタリ、枕元ニ人カ來テ居ル様ナ氣ガシテ眠レナイ事ガアツタリ、又怖イ餘リ逃ゲ出スコトモアリマシタ、今デハ餘程ヨクナリマシタ」云々。

之ニ依テ察スルニ病勢ノ如何ニヨリ時々幻視、幻聽等去來スルモノ、如シ、(之ヲ家人ニ聞クニ病勢ハ殆ド定期的ニ襲來シ、十五日間鎮靜スルト後ノ十五日間ハ兩親ノ見境ヒモナク亂暴シ、憤怒シ、器物ヲ破壊シ、浮浪シ、毫モ落チ付ナク獨語シ、空笑シ、何モノキニ見エタリ聞エタリスル模様ガアリマスト云フ。)

本鑑定中モ一回ノ發作アリ、如何ニ強ユルモ診察ヲ拒絶シ頑固執拗ニシテ家人ノ言ヲ聞カズ、目的ナシニ徘徊シ或ハ布團ヲ被ツテ終日臥床シ、三度ノ食事モ取ラズ湯ニ入ラズ聲ヲ掛クルモ緘黙シテ應答ナシ、偶々病院へ趣クカト思へバ虚構シテ汽車ニ乗り目的ナシニ遠ク旅行シ、無用ノ物品ヲ濫買スル等既往ニ於テモ一再ナラザリシト云フ。(實母ノ言ニ據ル)

認識又ハ指南方ニ就テハ殆ンド障礙ナシ、例へバ

問、此處(醫大附屬醫院)ヲ何ト思フヤ、

答、病院、

問、僕(醫者)ヲ何職ノ人ト思フヤ、

答、醫者デシヨウ、

問、此人(看護婦)ヲ何ト思フヤ、

答、看護婦、

問、君ハ何用デ病院へ來タリシヤ、

答、腦ガ悪イ、

問、自分デ左様思フカ、

答、家ノ者ガソウ言フ、

問、頭痛ヤ眩暈ハナキヤ、

答、シマセン、

問、今日ハ何月何日カ、

答、忘レマシタ、

問、何歳ニナルカ、

答、〇十三、

問、父ハ何歳デ死ンダカ、

答、〇十八、

問、母ノ健否ハ如何、

答、丈夫デス、

之ニ依テ見ルニ時ノ指南力ヲ除ク以外、場所乃至周圍ノ認識ハ普通ナリ。

記憶及ビ記銘、(過去ニ於ケル出來事ヲ追想シ得ル能力ヲ記憶ト云ヒ、現在ニ近キ昨今ノ出來事ヲ考ヘ出シ得ル能力ヲ假ニ記銘ト名付ク、精神病者ニハ前者ニ障礙ナキニ拘ラス後者ニ著明ノ欠陥アルコトアリ、又其反對ナルコトアルガ故ニ斯ノ能力ヲ個々ニ檢スル必要アリ、)

普通ノ出來事例ヘハ自己ノ生年月日(明治〇六年十一月十五日)就學ノ年齢、(九歳)卒業時期、(三十〇年三月)初婚時ノ年齢、(貳拾壹歳)退學後ノ生活歴、(家事ヲ手傳ツテ居マシタ)兩親ノ健否、兄弟ノ順位乃至健否、自己ノ疾病史、(貳拾〇歳ノ時淋疾ニ罹リ、咽喉ノ治療モシタ、黴毒ニ罹ツタコトハナイ、生來虛弱ダツタソーデス)湯治ニ行ツタ理由、(拾六歳ノ〇月〇〇ノ〇〇屋ヲ湯治シタ、腦ガ悪イタメニ、約一ヶ月許〇十許ニナル老婆ト同棲シ之ト肉的關係ヲ結ンダ、歸宅後〇地ヤ料理店ニ出入シ放蕩ニ金錢ヲ浪費シタ)乃至日清(廿七八年)日露ノ戰爭時(卅八年)等ヲ記憶シ、同時ニ理學的檢査ニ依ル記銘、例ヘバ眼前ニ種々ナル物品ヲ見セ之ヲ暗記セシメ、後拾分時ヲ經過シタ頃曩ニ見タル物品名ヲ追想セシメ、或ハ時計仕掛ノ器械ニヨル記銘、並ニ領解能力檢査法ノ成績ニ依リ一般的ニ佳良ナルヲ認メタリ。

判斷及ビ辨別、ノ障礙中最モ重要ニシテ且ツ多數ニ發來スルモノハ(一)妄想ト(二)妄想性解釋トノ二ツナリ、(一)

ハ誤マレル病的觀念ニシテ如何ナル理論又ハ如何ナル科學的實徵ヲ以テ其妄ヲ說破セントスルモ更ニ之ヲ矯正シ乃至反省セシタ得ザルヲ特性トシ、(一)ハ知覺セル對像ニ病的ノ解釋ヲ加味スル結果對像ノ真相ヲ誤マリ失當ノ判斷ヲ招來スルニ至ルモノヲ云フ、被申立人ハ過去並ニ現在ヲ通ジテ如上ノ病的障礙アルヲ發見シ得ズ、唯感情ノ影響ニ依ル判斷力ノ衰弱ハ之ヲ認メ得難シトセズ、其ハ感情ノ條下ニ於テ説明スル處アルベシ。

感情、檢診ニ應ジテ余ノ前ニ立タル被申立人ハ毎時頭部ヲ偏側ニ傾ケ、眉間ニ皺襞ヲ寄せ、頻繁ニ眼瞼ヲ開閉シ、固ク口裂ヲ締メ、一見抑止ノ觀アルモ問診ニ臨ンデ先ヅ微笑ヲ湛ヘテ單調ナガラ即答シ、敢テ故ナキニ怒リ悲ミ笑ヒ又ハ泣ク等ノ異常表出ヲ認メズ、然レドモ何等精神のニ彼ノ緊張ヲ促スベキ刺戟ナシニ之ヲ放任シテ陰ニ其行動ヲ觀察スルトキハ、感情生活上ニ可ナリ深甚ナル缺陷アルヲ見ル、例ヘハ病院ノ廊下又ハ往來ニ於テ偶マ彼ト邂逅スルコトアルモ何等ノ揖禮又ハ寒暖ノ挨拶モナシ、又患者控室ニアルヤ一定所ニ停立シテ殆ド茫然自失ノ態ヲ呈シ、周圍ト何等ノ交渉モナク、刺戟アルモ之ニ注意ヲ喚起スル模様モナシ。

之ヲ〇母ニ聞クニ、家庭ニ於ケル彼ハ全然氣隨氣儘ニシテ起臥飲食ニ規率ナク、放任シ置ケバ終日夜具ヲ冠ツテ怠眠ヲ貪リ、氣ガ向ケバ家人ノ制止モ聞カズ活動又ハ遊里ニ出入シ、無錢遊興ヲナシ、電話ニテ其辨償ヲ家人ニ命ジ、或ハ汽車ニテ遠ク遊ビ、或ハ店頭ニ立テ衣類洋服等ヲ估價シ、無言ニシテ又隣家ノ店頭ニ立チ同様ノ舉動ヲナス等ノタメ曾テ警察署ヨリ譴責セラレタルコトスラアリ、殊ニ病勢ノ亢奮期ニハ兩親ノ見界ヒモナク亂暴狼藉ヲ極メ、食事ヲ忘レ、湯浴ヲ拒ミ、毛髮ヲ亂シ、平然外出徘徊シテ歸ヘルヲ忘ルルコトアリシト云フ、其他家事ニハ全く無頓着ニシテ終日無爲ニ起臥シ、家庭ノ愛想モナク讀書文筆ノ趣味モナシ、而モ自ラ無聊ヲ訴ヘザル所以ノ者ハ一般感情、家庭感情、等ノ鈍麻セルヲ證スルモノナリ。

道德感情殊ニ羞耻感情ニ至ツテハ寧ロ病的ナルヲ思ハシムルモノアリ、其憶面ナキ彼ノ告白ニ依テ明瞭ナリト信ズ、即チ曰ク「廁ニ行ツタラ家人ノ人ガ這入ツテ居タ癩ニサハツタカラ硝子ヲ破ツタ」掃除ヲ仕ヨウト思フ時坐ツテ居テ邪

魔ニナルカラ毆ツタ「金ヲ吳レナイカラ無錢遊興ヲヤル」病院へ行ク振ヲシテ料理屋へ遊ビニ行ツタ「洋服ヲ評價シテ買ハヅニ來タラ先方ガ怒ツタ」無錢飲食シテ警察カラ叱ラレタ「氣ガ向ケバ家事ノ手傳ヲスルガ厭ナ時ハ布團ヲ冠ツテ寢テ居ル」又〇六歳頃神經衰弱ノ模様ニテ多少精神ニ異常ヲ認メタルタメ靜養ノ目的ヲ以テ〇〇ニ湯治療法ヲ試ミタルコトアリ、其際〇拾有餘ノ老婆ト私通シタリトテ左ノ物語リヲナス、曰ク「初メハ聞カナカッタガ無理ニ頼ンダラ同意シテ吳タカラ約一ヶ月許滯在中毎夜私通シタ、其レガタメ女ガ無クテハ眠レヌカラ歸宅後モ〇〇ノ一番奥ニ在ル〇〇樓へ始終遊ビニ行ツタ、一回〇五圓アレバ澤山ダ、〇〇ノ〇〇、〇〇下ノ〇〇其他〇〇ノ料理屋等デハ女中ニ五十錢カ一圓ヤルト直グ寢テクレル、此方カラ言ハナクモ先方カラス、メル、金ハ今迄ニ〇〇圓位シカ使ハナイ、使ツテモ〇ガ拂ツテクレル」云々。

其他、〇母ヨリ禁治産ノ宣告ヲ裁判所ニ願ヒ出デ居ルガ異議ナキヤ如何ト尋ヌルモ、彼ニハ何等ノ抗議又ハ辯解モナク僅ニ微笑ヲ洩スノミ。

意志及ビ行爲、一定ノ目的アル觀念ニ過去ノ經驗資料ヲ加味シ、其結果ヲ判斷シタル後之ヲ身體ノ運動ニ實現シ、一意所志ノ遂行ニ邁進スルハ所謂ル意志的行爲ニシテ正ニ精神ノ健全ナルヲ證スルニ足ル標準トナスヲ得ベケン、然ルニ被申立人ノ日常生活ニハ何等ノ目的ナク、貴重ノ歲月ヲ無爲ノ裡ニ空消シ、家人ノ辛苦ヨリ得ル金錢ヲ無謀ニ浪費シテ毫モ悔恨ノ色ナク、飽ケバ逸居シ、意ニ滿タザレバ衝動的ニ暴行シ、或ハ目的ナシニ徘徊放浪スル等ノ外現在並ニ將來ニ處スル企劃經營ノ意志的努力アルヲ聞カザルハ畢竟スルニ意志亢奮性ノ減退ヲ指示スルモノト謂ハザルヲ得ズ、而シテ其時期ハ生年〇六歳以後ナルガ如シ、何トナレバ小學修業中ハ「勉強ガ面白い」是非〇學ノ試験ニ應ジタイトテ日夜勉強スル故、軀ガ悪クナルト善クナイカラ止メタガヨイト醫者ヨリ注意サレタ程デス」ト家人ノ物語レルニ徴シテ略ボ昨今は非ヲ想像スルニ難カラザレバナリ。

總評

一、被申立人ノ精神並ニ身體ノ發育ヲ阻碍シタリト思ハルル遺傳負因ヲ發見シ得ズ。

二、出生後ノ彼レガ體質ハ虛弱ニシテ殆ド醫藥ニ遠カリシコトナク、長ズルニ從ヒ氣質ハ内氣、因循、而モ神經過敏等ノ症候顯著トナリ、交友多カラズ學事成績モ漸次退歩ノ傾向アリシガ卒業後即〇六歲頃ヨリ飲酒、吹煙、荒色、遊惰等ノ惡習ヲ馴致シ、家人ノ生計ヲ顧ズ、精神ノ變調次第ニ濃厚トナリシ結果遂ニ其當時ノ〇〇縣立〇〇科ニ入院治療ヲ請フニ至レリ、然レモ治療ノ見ルベキモノナキヨリ轉ジテ〇〇温泉ニ靜養ヲ試ミシト云フモ是亦奏効ナキノミカ病勢ハ愈増惡シテ興奮狀態ヲ呈シ、次デ又鎮靜スルモ半月ヲ出デズシテ再ビ興奮シ、又鎮靜スル等交互ニ往來シテ今ニ至ルモ治セズ、止ムナク禁治産ノ申請ヲナスニ至リシ所以ナリト云フ。

三、就テ檢診スルニ現在ノ主症候ハ概ネ左ノ如シ。

(甲)、瞳孔反應微弱乃至缺如、手指ノ微細振顫、膝蓋髓反射微弱、左胸萎縮、右側肺炎加答兒ノ疑ヒ等、

(乙)、觀念貧弱、時ノ指南力不全、幻視幻聽ノ去來、獨語空笑、時ニハ緘默、執拗、拒絶、感情ノ鈍麻、意志行爲ノ減退等、

之ヲ尙要約スレバ智的方面ハ比較的佳良ニ保持セラレ居ル狀況ナルニ拘ラズ感情並ニ意志行爲ガ顯著ニ障礙セラレ居ル現狀ナリト云フニ歸着ス。

四、何等發病ノ原因ト認ムベキモノナキニモ似ズ破瓜期頃ヨリ精神ノ變調ヲ呈シ、其經過頗ル緩慢ニシテ時々興奮ト鎮靜トヲ交エ、智力ニ顯著ナル缺陷ヲ發見シ得ザル間ニ感情ト意志トガ初期ヨリ甚大ナル障礙ヲ呈スルガ如キ精神病ヲ廣義ニ「早發性痴呆」ト云ヒ、又ハ人格分裂性痴呆トモ云フ、被申立人ノ現在症候ハ正ニ該病ノ其レト一致スルヲ想フモノナリ。

五、早發性痴呆ヲ細別シテ更ニ數種トナス、然レモ被申立人ガ發病以來ノ症狀、經過、並ニ現在症等ヲ綜合シテ考フル時ハ正ニ「破瓜病」ト稱スルモノニ屬シ、多クノ鑑別診斷ヲ試ムル必要ナキガ故ニ今其煩ヲ省畧スルコトトセリ。

抑モ破瓜病ナル精神病ハ、青年期ニ發病シ緩漫ナル經過中多少ノ亢奮期ト鎮靜期トヲ呈スルモ、顯著且ツ特種ナル症狀ヲ缺キ、時々妄想妄覺等浮動スルコトアルモ、他ノ病型ニ於ケルガ如キ持續性ナク、智力殊ニ悟性ハ比較的永ク佳良ニ保持セラルルニ拘ラズ感情ト意志即人格ガ次第ニ荒廢シ行キ、遂ニハ智力モ之ガ爲ニ被ハレ、結局痴呆狀態ニ陥リ到底全快ノ望ミナキモノナリ、

六、本病ノ原因ニ就テハ議論今尙區々ニシテ確說ナシト雖、晚近ノ科學的檢索ニ依レバ内分泌液相互ノ均衝ヲ失ヒ、腦髓ノ榮養ヲ障礙スルニ歸因スト云フニ畧ボ一致シツ、アルモノ、如シ、從テ現時ハ主トシテ臟器療法ヲ行ヒツツアルモ、未ダ之ニ因テ治癒シタル報告アリシヲ聞カズ、又以テ本病ノ豫後ガ不良ナルヲ想像スルニ足ラン。

七、翻テ被申立人ノ現時ニ於ケル精神障礙程度ガ心神喪失ニ該當スルヤ否ヲ案ズルニ、凡ソ二様ノ見解アルベキヲ想フモノナリ、其一ハ即智力方面ヨリスルモノニシテ其二ハ人格的方面ヨリ立論スルモノ是ナリ、前者ヨリ案ズレバ、現在彼ノ意識ハ清明、悟性ハ健康、注意又ハ記憶ハ略ボ尋常ニシテ、觀念障礙ヲ除ク以外ニハ始下病的ト認ムベキ顯著ナル症狀アルコトナキヲ以テ、心身喪失ノ狀態ニアリトハ論斷スルヲ得サルヤ勿論ナリ、然レドモ智力ヲ鹽梅シ行爲ヲ調節スルガ感情其者ナリトセバ現在彼ノ感情ハ全然鈍麻シ、意志ハ減退シ居ル事實明瞭ナルガ故ニ、智力ハ比較的佳良ナルモ人格ハ既ニ荒廢シ居ルヲ以テ眞ノ智的活動トハ認ムルヲ得ザルベシ、况ヤ彼ノ罹レル精神病ノ終焉の運命ハ精神全部ノ廢絶、換言セバ痴呆ノ狀況ニ存スベキモノナルガ故ニ、終局ヨリ打算スレバ心身喪失ノ狀況ニ在ルベキ性質ノ精神病者ナリト謂ハレザルニ非ザルヤヤ。

又之ヲ病勢上ヨリ案ズレバ、本病ノ第一期(前驅期)タル神經衰弱樣症狀時代ハ既ニ經過シ去リ、第二期(病頂期)ノ妄覺乃至妄想ニ依ル興奮時代モ歲月ト共ニ減弱シ、今ヤ第三期(痴呆期)タル感情及ビ意志ノ鈍麻顯白ナル時代ニ當タレル證據充分ナルヲ認ムルガ故ニ、單ニ智力ハ佳良ナルモ疾病ノ時期ヨリ判斷スルヲ許ストセバ當然第三期ノ狀態即痴呆狀態ニシテ、取リモ直サズ心身喪失ノ狀況ニアリト謂フモ妨グザルベシト思量スルモノナリ。

若シ、智力ノ障礙程度ヲノミ標準トシテ心身ノ喪失程度ヲ劃定セント欲セバ盲人ノ象ニ於ケルガ如キ誤解ナキヲ保スベカラズ、何トナレバ象ノ全體ハ既ニ病的ナリ、然ルヲ其一部分ヲ指シテ健康ナリト云フニ均シケレバナリ、之ヲ被申立人ニ當テ考ヘンカ、彼ノ一身ハ破瓜病ト稱スル精神病ニ變態シ終ハリヌルモ、唯大洋ニ島嶼ノ散在スル如ク健康部モ其中ニ散點スルモノト見バ誤リナキニ近カラン乎、斯ル見地ヨリ大觀スレバ、被申立人ノ現在精神状態・心身喪失ノ狀況ニアリト言フモ不可ナカラント思量ス。

八、假ニ精神病學の解釋ヲ度外視スルモ、遊惰、放佚、浮浪徘徊、浪費、濫買等ノ事實アリトセバ其家族ノ保護上相當ノ制裁ヲ講ズベキハ勿論ナリ、況ヤ是ガ病理的精神上ヨリ來リシ現象ナルニ於テオヤ。

九、更ニ本病ト治産能力トノ關係ヲ考フルニ、本病ノ主症候トシテ智力中殊ニ觀念界ノ障礙ハ早クヨリ必發スルモノナルガ故ニ、新舊觀念ノ同化作用ハ月ト共ニ減弱スル結果、觀念群ハ次第ニ貧弱トナリ、志想ハ斷裂シ、判斷ノ資料トナルベキ經驗ハ消褪シ、唯目前ノ刺戟ニノミ反應シ行動スルガ故ニ、是非善惡ヲ辨別シ結果ヲ考慮スベキ能力ヲ失ヒ、容易ニ他人ノ乘ズル處トナルハ推測ニ難カラズ、況ヤ感情鈍麻、意志減退等ヲ主要症狀トスル本病者ニ治産ノ能力、責任又ハ義務觀念ノ保證ヲ望ムハ極メテ危險ナリト謂ハザルヲ得ズ、去レバ現在ノ智力状態ガ比較的佳良ナルニ重キヲ置キ、心身耗弱ノ程度ニアリト認定シ、人道上ノ權能ヲ與ヘントスルモ疾病其者ノ性質トシテ漸々増悪シ、進歩シ、遂ニ肉ニ生キテ靈ニ死スルノ不治不良ナル豫後ヲ有スルモノナルコト明瞭ナル以上ハ、寧ロ回復スベカラザル心神喪失ノ時期ヲ待タズ、成ルベク早期ニ破産ノ悲慘ヲ豫防スルコト其家族其本人ヲ保護シ救済スル所以ノ道ナリト思量スルモノナリ。

十、上來反覆開陳ノ理由ニ基キ、疾病ノ豫後ニ鑑ミ、過去ヲ想ヒ、將來ヲ顧慮シテ心身喪失ノ程度如何ヲ問ハズ直截ニ左ノ鑑定ヲ下サント欲ス。

鑑定

一、心神喪失ノ程度如何ヲ鑑別スルハ時期ノ問題ニ屬ス可キモ、被申立人ノ罹レル精神病ハ到底不治ノ疾患ナルト
 同時ニ歲月ノ經過ニ伴ヒ病勢増悪ノ性質ヲ有スル以外現ニ第三期ノ症狀存在スルヲ以テ、被申立人ノ現在精神狀
 態ハ治産ノ能力ナキニ、心神喪失ノ常狀ニアリト認定ス。
 右之通及鑑定候也

本鑑定ハ大正〇〇年〇月〇〇日ニ始マリ同年〇月〇日ニ至ル〇拾〇日間ニ終了シタルモノナリ。

大正〇〇年〇月〇日提出

〇〇縣〇〇市〇〇〇十〇番地

鑑定人 〇學〇士 〇〇〇〇〇〇